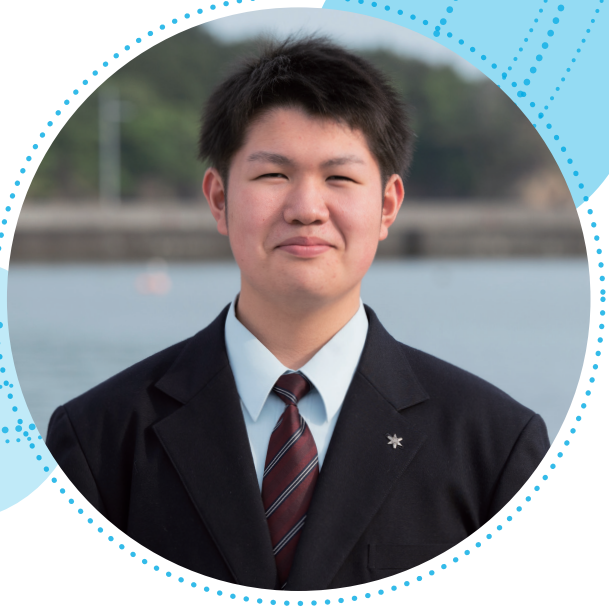


2022年度
活動レポート

2022.4.1-2023.3.31

ANNUAL REPORT



公益社団法人
日本ユネスコ協会連盟



皆さまの継続的なご支援に心より感謝申し上げます

日頃より、日本ユネスコ協会連盟の活動に温かいご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。皆さまのお力添えにより実施いたしました 2022 年度の公益活動についてご報告させていただきます。

いま世界では、終わりの見えないウクライナ戦争をはじめ、2023 年 2 月に発生したトルコ・シリア大地震などの大規模な災害、アフガニスタンやミャンマーで続く厳しい治安情勢など、難問が山積しており、世界各地の平和や教育環境がおびやかされています。私たちは、これらの世界の課題に向き合い、苦境にたたされた人びとの心に寄り添う支援活動を心がけてまいりました。

また日本国内でも、子どもたちの教育を取り巻く課題や格差が広がる中、当連盟では、とりわけ、2011 年の東日本大震災で危機的な状況に陥った被災地の教育復興を支えるため、子どもたちへの奨学金支援を続けてまいりました。この「東日本大震災子ども支援」の活動は 2025 年度まで続けますが、ご寄付の受け付けは 2022 年度末で終了させていただきました。これまで長きにわたり東北支援を支えていただきましたご寄付者の皆さまに改めて深く感謝を申し上げます。

当連盟では、これから先も、新たな災害が起こった際に被災地の子どもたちを支援していくとともに、被災地以外でも、さまざまな理由で困難な状況に置かれている日本の子どもたちを応援する包括的な支援の枠組みを構築し、日本各地に取り組みを広げてまいります。
今後とも皆さまからのご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2023 年 7 月
公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

会長 佐藤 美樹

UNESCO憲章（前文より抜粋）

**戦争は人の心の中で生まれるものであるから、
人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。**

日本ユネスコ協会連盟が目指すこと

ビジョン　指針と展望

Peace for Tomorrow
広げよう平和の心

UNESCO（国際連合教育科学文化機関）憲章の理念に基づき、国内外で志を同じくする人びとや団体と連携し、平和な世界の実現を目指し、ともに学び、行動する民間ユネスコ運動へ。

ミッション　使命と責務

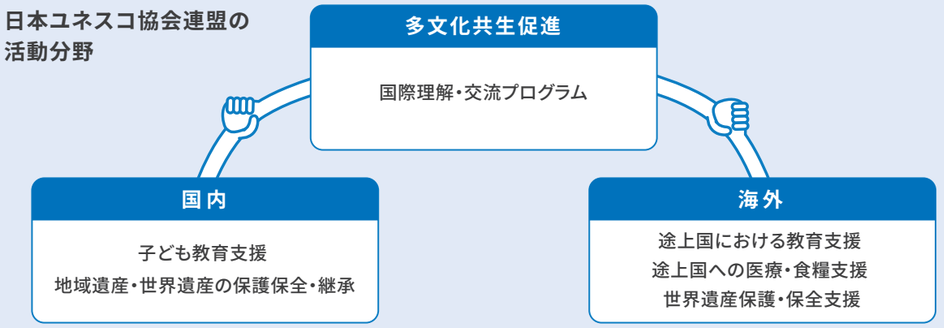
1. 平和な世界の構築
すべての命を尊び、多様性の尊重と国際理解の深化をはかり、紛争のない世界、核兵器のない世界を希求し、草の根から積極的に「平和の文化」の構築をすすめます。

2. 持続可能な社会の推進
世界が抱えるさまざまな課題に向き合うための教育＝ESD（持続可能な開発のための教育）を生涯学習の重要な柱と位置づけ、持続可能な社会の実現を目指します。

教育は平和な世界の礎

年齢や国籍、宗教、性別を問わず、すべての人びとが、基本的人権として、教育を受けられる世界を実現することが平和の礎となります。教育支援を通じて、貧困の連鎖を断ち切り、自立した人生をつくる力を育み、世界の人びとが違いを乗り越えて互いに尊重しあえる社会を目指しています。これからも子どもたちが希望にあふれた未来を切り拓けるよう、教育支援に取り組んでいきます。

日本ユネスコ協会連盟の活動分野



SDGs（持続可能な開発目標）への取り組み

重点ゴール 4「質の高い教育をみんなに」

貧困や飢餓、教育、ジェンダー、保健、環境、気候変動などの世界的な課題に対し、2030年までに達成すべき目標がSDGs。私たちは、ゴール4「質の高い教育をみんなに」が17すべてのゴールの根幹を成すとの考えのもと、SDGsの達成に貢献します。



東日本大震災子ども支援

ユネスコ協会
就学支援奨学金

高校進学支援を継続
安心して学べる環境を

**高校進学に伴う家計負担への不安を軽減し、
教育を通じて子どもたちの希望を支える。**

2011年に起きた未曽有の震災被害を受け、当連盟では、短期・中期・長期を視野に、さまざまな教育・文化復興に取り組みました。本奨学金は2022年で12年目となった長期支援の一つです。国際比較で教育費の家計負担が重いといわれる日本において、被災地の子どもたちを教育格差のリスクから守ります。奨学金は2022年度も、高校進学前後にかかる学習費用や学用品購入、定期代、部活動費用などに活用されました。

事業概要

■対象

東日本大震災における地震・津波による住居の流失や損壊、あるいは原発事故による避難などで経済状況が悪化した家庭の、高校進学を希望する子どもたち

■内容

中学3年～高校2年修了までの3年間にわたり、月額2万円の返済不要の奨学金を支援

2022年度 事業成果

奨学生人数	支援地域	奨学金給付額
429人	岩手県・宮城県・福島県の中で被害の大きかった23市町村	1億266万円

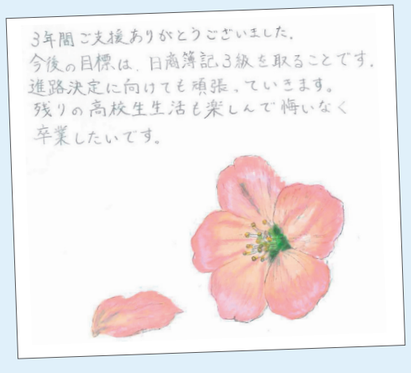
累計成果（2011～2022年度）

奨学生人数	支援地域	奨学金給付額
3849人	岩手県・宮城県・福島県の中で被害の大きかった25市町村	25億7583万円

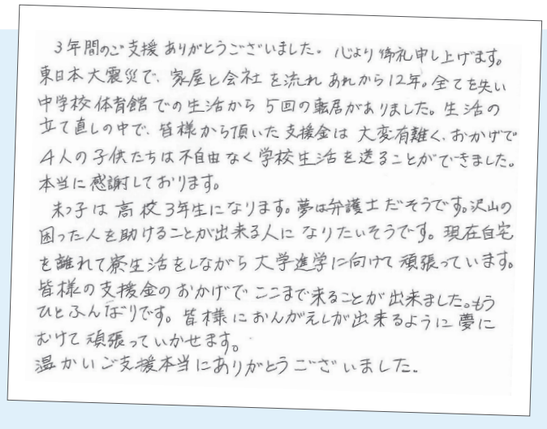
2022年度も奨学生の新規採用を行いました

被災からの生活再建やまちづくりが進む中、コロナ禍の影響を受け、いまなお被災地の多くのご家庭で子どもたちが安心して学校に通うための経済的支援が必要とされています。2022年度は294人の中学3年生を新規奨学生として採用しました。なお、採用は2023年度が最後年となります。それに伴い、本奨学金へのご寄付の受け付けは2023年3月末をもって終了しました。今後は「災害子ども教育支援」事業（p.6）で、災害後の教育復興に取り組みます。

奨学生・保護者からお手紙をいただきました


3年間ご支援ありがとうございました。
今後の目標は、日商簿記3級を取ることです。
進路決定に向けても頑張っていきます。
残りの高校生生活も楽しんで悔いなく
卒業したいです。

奨学生より


3年間のご支援ありがとうございました。心より御礼申し上げます。
東日本大震災で、家屋と会社を流れ あれから12年。全てを失い
中学校体育館での生活から5回の転居がありました。生活の
立て直しの中で、皆様から頂いた支援金は大変有難く、おかげで
4人の子供たちは不自由なく学校生活を送ることができました。
本当に感謝しております。
末っ子は高校3年生になります。夢は弁護士だそうです。沢山の
困った人を助けることが出来る人になりたいそうです。現在自宅
を離れて寮生活をしながら大学進学に向けて頑張っています。
皆様の支援金のおかげでここまで来ることが出来ました。もう
ひとふんばりです。皆様におんがえしが出来るように夢に
むけて頑張っていかせます。
温かいご支援本当にありがとうございました。

保護者より

奨学生インタビュー

家業を継ぎたいという思いを胸に

尾形玲皇（れお）さん（岩手県大船渡市　高校1年生）

岩手県大船渡市で、代々ワカメなどの養殖業を営んできた尾形家。長男の玲皇さんは、幼いころから作業場で遊びながら、父、仁（ひとし）さんの働く姿に憧れてきたといいます。やがて中学生になると、将来、家業を継ぐなら仕事を覚えなくてはと、卓球の部活が休みとなる日曜日に手伝うようになりました。

「作業は朝4時くらいから昼ごろまで。最初は早起きが大変でしたけど、だんだん慣れてきました」

深夜1時から3時くらいの間に、大人が船でワカメの養殖場へ向かい、収穫したワカメが浜に戻ってくるのが4時ごろ。それを、玲皇さんたちがボイルしたり芯を抜いたりして処理します。

ワカメ作業を手伝い始めて4年目となる今年、玲皇さんは高校生に。家業に役立つと考えて海洋システム科を選びました。

「専門的な授業はまだですけど、これから地元の海産物について、生産から流通までのシステムを学んでいきたいです」

そして、将来は家業でネット販売を始めたいと夢を語ってくれました。


「父（写真右）が仕事を頑張ってきたことを尊敬しているし、感謝しています」


「ワカメの作業は家族や親戚の人たちと一緒にやれるので楽しいです」

家やまちの再生を見ながら育った

玲皇さんが震災に遭ったのは3歳のとき。地元消防団の仁さんは、海岸にいる人たちを避難させ、水門などを閉めているうちに、津波が迫ってきたので山へ。それから山伝いに保育園まで子どもたちを迎えに行ったといいます。当時住んでいたアパートは跡形もなく流され、全壊した玲皇さんの祖父母の家を再建し、いまは10人の大家族で暮らしています。幸い船だけは、ゆるくつないでいたため沖へ流され無事でしたが、作業場の設備も養殖筏（いかだ）も壊滅状態。玲皇さんは、何もないところから、家やまちが再生するのを見ながら育ちました。ユネスコ協会就学支援奨学金は、そんな玲皇さんが未来のために学ぶ日々を支えています。

「いただいた奨学金は、海洋システム科で使う作業着や長靴などの購入に充てました。震災後12年経っても、このような支援があることに感謝しています」と仁さん。

おととし、仁さんは難病を患い、以前のように仕事を続けるのが難しくなりました。それもあって、いつかは父の代わりにと言葉少なに語る玲皇さんを、「自分の人生なので、もしも気持ちが変わったらそれでもいい」と仁さんは思いやります。

家業の担い手を目指す一方で、家では優しいお兄ちゃんでもある玲皇さん。その成長を、いつも身近にいる家族が見守っています。


大船渡でいちばん好きな場所は碁石海岸。
「毎年、家族で初日の出を見に行きます」

東日本大震災子ども支援

MUFG・ユネスコ協会
東日本大震災復興育英基金
（奨学金プログラム）

被災地の教育復興と子どもたちの教育機会を守る

震災で親を亡くした子どもたちの長期的な生活と学びの支援。

2011年3月の東日本大震災発生後、被災地の教育復興を支援するために、三菱UFJフィナンシャル・グループとともに標記基金を創設しました。2022年度は194人に奨学金を給付しました。そのうち、震災が発生した年の4月に小学校へ入学した59人が、2023年3月に高校を卒業。奨学金の受給を終えた彼らは、進学や就職などそれぞれの未来に向けて新たな道を歩み始めています。

事業概要

■対象
東日本大震災で親を亡くした小学生・中学生・高校生（2014年小学校入学児童まで）

■内容
小学校から高校卒業までの在学期間中、月額2万円の返済不要の奨学金を支援。このほか、本基金によりこれまでに国際交流プログラムや学校の花壇の再生プログラムなどを実施

協力：三菱UFJフィナンシャル・グループ

2022年度 事業成果

奨学生人数	支援地域	奨学金給付額
194人	岩手県、宮城県、福島県、秋田県、茨城県、東京都、神奈川県、島根県	4626万円

累計成果（2011～2022年度）

奨学生人数	支援地域	奨学金給付額
1486人	岩手県、宮城県、福島県、秋田県、茨城県、東京都、神奈川県、島根県	22億7692万円

コロナ禍でも一生懸命に取り組んだ学校生活

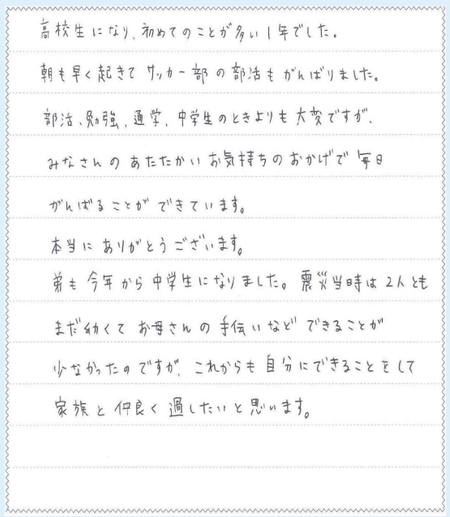
この春、高校に進学や進級、卒業した奨学生や保護者から、たくさんのお便りをいただきました。コロナ禍で学校生活に制約を強いられながらも、学業や部活動などに懸命に取り組んだ様子や、支援への感謝の言葉が届いています。



この春卒業した奨学生。
夢に向かって専門学校で資格取得を目指します

高校を卒業した奨学生の一人は、オンライン授業や分散登校など慣れない高校生活が続き、受験勉強に不安を抱えていたといいます。しかし、奨学金のおかげで学習塾に通うことができ志望大学に合格しました。将来は看護師として人の助けになりたいという夢に一歩近づけました。また、高校に入学した奨学生の一人は、中学時代に部活動の大会や学校行事が中止になり、悔しい思いをした中での受験に。高校では支援への感謝の気持ちを忘れず、勉強だけでなく、部活動や学校行事にも全力を注ぎたいと期待に胸を膨らませています。

奨学生からお手紙をいただきました


高校生になり、初めてのことが多い1年でした。
朝も早く起きてサッカー部の部活もがんばりました。
部活、勉強、通学、中学生のときよりも大変ですが、
みなさんのあたたかいお気持ちのおかげで毎日
がんばることができています。
本当にありがとうございます。
弟も今年から中学生になりました。震災当時は2人とも
まだ幼くてお母さんの手伝いなどできることが
少なかったのですが、これからも自分にできることをして
家族と仲良く過ごしたいと思います。

2023年4月、高校2年生になった奨学生より

事業開始1年

災害子ども教育支援

いつか起こる災害から子どもたちの未来を守るために

被災地の教育現場の復旧・復興や、子どもたちの就学、学習環境の整備・復興の支援を行う。

本事業は「東日本大震災子ども支援」の後継事業として始まりました。日本各地で大きな災害が発生した際、災害の規模や現場のニーズに応じて、3つの支援プログラム（下記「事業概要」参照）を行います。
2022年度は、「学校支援」の対象となった2つの災害において、被災校への物資支援を実施しました。お寄せいただいたご寄付は、大規模災害がいつ、どこで起こっても、迅速な教育支援ができるよう今後も生かされます。

事業概要

①学校支援

■対象
学校等（幼稚園、小学校、中学校、高等学校ほか、教育や子どもに関連する機関・施設）

■内容
学校等の復旧・復興に必要な物資などを調達するための支援

■対象災害
激甚災害に指定された災害

②奨学金支援

■対象
①災害で就学のための経済的な支援が必要になった子ども
②災害で親を亡くした子ども
（①②ともに中学3年生）

■内容
高校進学を支えるための奨学金支援（給付型）

■対象災害
激甚災害に指定され、かつ子どもたちへの就学支援が必要とされる大規模な災害

③ユース・ボランティア支援

■対象
被災地の復旧・復興のためのボランティア活動に取り組むユース・グループ

■内容
ボランティア活動費の補助

■対象災害
災害ボランティアセンターなどから災害ボランティア派遣要請が出された災害

地震や台風で被災した学校への物資支援を実施しました

2022年3月に発生した福島県沖地震で被災した福島県相馬郡新地町の小・中学校4校（駒ヶ嶺小学校、新地小学校、福田小学校、尚英中学校）からの支援要請を受け、地震で破損した教室用モニターやパソコン、映像機器などの支援を行いました。また、2022年9月に発生した台風15号で学校が浸水した静岡県浜松市の天竜高校に対して、体育や学校行事で使用する備品、教材などを支援しました。



支援金により、学校行事や避難所運営に使用する演台と、児童が授業で使用するタブレット用のイヤホンを購入（福島県・福田小学校）

事業設立の背景

近年、地震の他にも、台風や豪雨など、激甚災害に指定される災害が毎年発生し、各地で被害をもたらしています。また、南海トラフ地震や、首都直下型地震などのメガ災害の発生も高い確率で予測されています。本事業では、いつ災害が起こっても子どもたちの学びが途切れないように、平時から皆さまのご寄付を積み立てさせていただき、災害発生時に迅速な支援が行えるよう備えます。
民間団体として、ニーズに柔軟かつきめ細やかに応え、被災地に寄り添った教育復興支援を目指します。

アクサ ユネスコ協会
減災教育プログラム

災害時に命と地域を守れる子どもを育てる

学校の減災教育の推進・改善を支援し、地域防災の中心となる子どもたちを育てる。

2022年度は、助成校26校に各10万円の助成金を支給しました。9月、東日本大震災の被災地（宮城県気仙沼市）の学校や震災遺構を訪問し、助成校の教員研修会を実施しました。2023年2月には、助成校が1年間の成果と課題を共有する活動報告会、および全国の被災地の実践事例紹介や、有識者による先進的な減災教育の講義から、減災教育の知見を深めるフォーラム（一般公開）を東京で実施しました。フォーラムはオンラインでも配信しました。

事業概要

■ **対象**　全国の小学校、中学校、高校（義務教育学校、特別支援学校等含む）

■ **内容**　①助成金支給（10万円/校）　②教員研修会（被災地訪問）
③活動報告会および減災教育フォーラム（一般公開）

協力：アクサ生命保険株式会社、奈良教育大学ESD・SDGsセンター／後援：文部科学省／プログラムコーディネーター・講師：及川幸彦先生（奈良教育大学）／ファシリテーター・講師：上田和孝先生（新潟大学、SEEDS Asia）、嵩倉美帆氏（笹川平和財団海洋政策研究所）／研修共催：気仙沼市教育委員会／研修協力：気仙沼市立階上小学校、気仙沼市立階上中学校、宮城県多賀城高等学校、認定特定非営利活動法人SEEDS Asia

2022年度 事業成果

活動助成
26校（16都道府県）

教員研修会参加者
25校 25人　および 2021年度助成校 **12校 12人**

活動報告会参加者
26校 26人

減災教育フォーラム 参加者
188校・関係団体など 203人

活動に参加した 児童・生徒
26校 6755人

活動に携わった 教員・保護者・地域住民など
26校 3000人

累計成果（2014〜2022年度）

活動助成
216校

活動に参加した児童・生徒・教員・保護者・地域住民など
8万 2659人

助成校の活動事例

防災・減災を通して地域に貢献する生徒を育てる

清水飯田中学校（静岡県）では、自治会と協働した地域防災訓練や有識者による講話、避難所運営訓練を通して、地域貢献について探求学習を実践し、成果を地域に向けて発信しました。「生徒が防災意識を高めると、家庭、地域の自主防災力が高まる」と評価され、継続した地域との協働への期待が高まっています。



地域防災訓練で住民と一緒に救助活動を体験。2022年の台風15号で地域が被災した際、「中学生でも災害時に力になれる」と、自主的に地域の災害ボランティアに参加した生徒もいた

助成校の活動事例

SDGsの理念を地域防災に生かす

松山工業高校（愛媛県）では、SDGsの視点を地域防災に生かし、地域と連携した持続可能な社会づくりを担う防災リーダーの育成に取り組みました。イベントに参加するほか、小中学校へ出前授業を行うなど、生徒が減災の大切さを発信しました。生徒主体の活動を通じ、教員や地域の防災意識も高まりました。



小学校での出前授業では「防災まち歩き」や「防災マップづくり」を児童、地域の防災士と一緒に行った。PTAや大学とも連携し、地域に根差した活動となっている

新事業

U-Smile
〜みんなでつなぐ
子ども応援プログラム

日本の子どもの豊かな未来のために

相対的貧困※やさまざまな理由で困難な状況に置かれた子どもたちを支援。

※相対的貧困については下記「事業設立の背景」を参照

困難な状況に置かれている日本の子どもたちが、夢や希望を持てる社会、ひいては豊かな日本の社会の実現を目指して支援を開始。2022年度はテストランとして、下記のユネスコ協会・クラブと連携して活動しました。

2022年度 事業成果

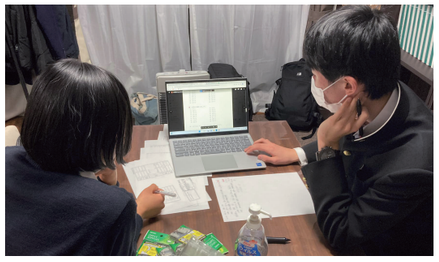
特定非営利活動法人 維新隊ユネスコクラブ　群馬県前橋市
- **食事付無料塾の開設**
  - ■ **対象**　一般的な塾に通えない子ども

宇部ユネスコ協会　山口県宇部市
- **地元金融機関と連携し「おかねを学ぶ教室」の開催**
- **沖縄県ユネスコ協会と協働で、沖縄体験旅行の実施**
  - ■ **対象**　居場所支援に通う子ども

高松ユネスコ協会　香川県高松市
- **地元の居場所支援団体と協働し学習支援を加えた包括教育支援の実施**
  - ■ **対象**　居場所支援に通う子ども

ふくいユネスコ協会　福井県福井市
- **課題共有に向けたふくいユネスコフォーラムの開催**
  - ■ **対象**　一般市民

箕面ユネスコ協会　大阪府箕面市
- **子ども支援に関する研修会の実施**
  - ■ **対象**　ユネスコ協会会員



オンライン学習の様子（維新隊ユネスコクラブ）



沖縄体験旅行（宇部ユネスコ協会・沖縄県ユネスコ協会）

事業設立の背景

日本の子どもの7人に1人が相対的貧困の状態にあります。相対的貧困とは、その国や地域の大多数より貧しい状態をいいます。ひとり親世帯に限ると2人に1人が貧困状態です。貧困、虐待やいじめ、ネグレクト（育児放棄）、外国にルーツを持つなど、さまざまな理由により困難な状況に置かれた子どもたちの将来の可能性は、大きく閉ざされています。
教育機会に恵まれない子どもは、所得の低い職業につかざるを得ず、さらには、その子どもが教育を受けられなくなるという悪循環が続き、次の世代に貧困が連鎖します。また、子どもたちの貧困問題を放置することで社会的損失の発生が懸念されています。そのため、困難な状況に置かれている子どもたちへの支援は、彼ら自身の将来を守るとともに、日本全体の未来にとっても重要な課題となっています。
本事業では、子どもたちが基本的な生活習慣や自己肯定感、学習習慣を身につけ、人や社会と関わる力や将来の自立に向け生き抜く力をつけることを目的としています。

世界寺子屋運動

すべての人に教育の機会を！

教育を必要とするあらゆる人びとに学びの機会を提供し、貧困のサイクルを断ち切る。

2022年度、カンボジアとネパールでは、新型コロナウイルスによる制限が概ね解除され、計画通りの活動を実施することができました。コロナ禍により公教育からの中途退学者が増えていることから、寺子屋の役割の重要性が顕著となった1年でした。一方、2021年に起きた政変以降、事業を中断しているミャンマーおよびアフガニスタンでは、治安や政府の認可など困難な状況はあるものの、2023年度中の事業再開に見通しを立てることができました。

事業概要

■ **対象**　紛争や経済的事情で学校に通えない子どもたちや、教育を受けられないまま大人になった人びと

■ **内容**　寺子屋というノンフォーマル教育施設を通じ、学びの土台となる識字教育や、小・中学校教育の学びなおしの機会を提供するほか、地域のニーズに応じて職業訓練などを実施

現地事務所：カンボジア、アフガニスタン
カウンターパート：ネパール・ノンフォーマル教育ナショナルリソースセンター（NRC-NFE）、ミャンマー識字リソースセンター

累計成果（全体）（1989〜2022年度）

参加国・地域	参加者数（支援者数）
44カ国1地域	135万人

カンボジア

2022年度 事業成果

幼稚園クラス	小学校クラス	識字クラス
203人	347人	371人

進学支援	小口融資	米銀行（貸付）	寺子屋建設
145人	250世帯	80世帯	1軒

累計成果（2006〜2022年度）

寺子屋建設	
21軒	他、各種教育・研修・収入向上プログラム

コロナ禍を乗り越え、1066人に学びの機会を提供

2022年度はシェムリアップ州にある20の寺子屋で、成人識字クラス、小・中学校クラス、幼稚園クラスなどの教育活動を通じて、1066人に学びの機会を提供することができました。また、養牛や収入向上活動には新たに330世帯が参加しました。その他、図書館の運営のほか、寺子屋運営を担う運営委員向けの研修も継続的に実施し、持続的な運営を目指しています。



小学校クラスで学ぶ子どもたち

21軒目の寺子屋が完成

2023年2月、シェムリアップ州ワリン郡ワリンコミューンに寺子屋ができました。人口約5万人のうち、93%の人びとが農業で生計を立てていますが、土壌や灌漑（かんがい）などの問題があり、貧困率は20%近くにのぼります。成人人口の約8%が読み書きできず、学校に行っていない子どもは14%にもなります。今後、成人向けの識字クラスや職業訓練、小学校クラスなどを実施する予定です。



地域の期待を集めるワリン寺子屋

ネパール

2022年度 事業成果

幼稚園クラス	小学校クラス
202人	824人

家庭内識字クラス
200人（親子100組）

識字と職業訓練クラス	寺子屋建設
100人	1軒

累計成果（2002〜2022年度）

寺子屋建設	
20軒	他、各種教育・研修・収入向上プログラム

学習者の声

家庭内識字クラス
クマリ・チョードリさん（母）
プリヤンカさん（娘・高校生）

母「家庭内識字クラス（親が子どもに伝統知識や技能を伝え、子どもが親に基礎識字を教える）で娘から読み書きを習いました。携帯電話が使えるし、簡単な計算もできるようになりました。以前はペンの使い方もわからず、サインを拇印で代用していましたが、いまは自分の名前が書けます。私は娘に野菜栽培やお米のケーキのつくり方を教えましたし、児童婚の問題点や伝統的なお祭りについても伝えました。娘の進学を支援したいと思っています。」

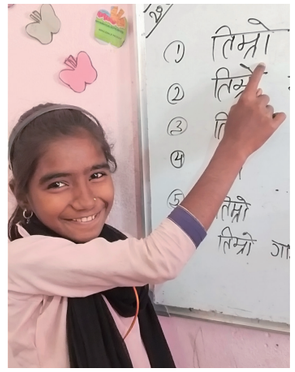
娘「お母さんにネパール語の読み書きを教えることができてよかったです。このクラスに参加することで、地域の人からは高校卒業後に進学するようアドバイスを受けました。将来は看護師になりたいです。」

学校に行けない子どもへの教育を拡大

小学校に行ったことがない、または中途退学をした子どもを対象にしたクラスを実施しました。今年度は、新型コロナウイルス拡大によって学校を辞めてしまった子ども115人を新たに受け入れてクラスをスタート。ネパール語や算数など5教科を週6日学び、クラス終了後にはテスト結果に応じて公立の小学校高学年や中学校に進みます。



小学校クラスでは皆、真剣な表情



「読み書きできるようになったよ!」

小学校へのスムーズな入学のための幼児教育を実施中



木型の文字を組み合わせてネパール語を学ぶ子どもたち

小学校入学前の4歳児を対象に、1年間の幼稚園クラスを実施しました。生徒たちはネパール語が母語ではないため、ネパール語で行われる小学校の授業についていけるよう、ネパール語や英単語をポスターやパズルから学びました。また、手洗いなどの公衆衛生も学んでおり、学習面以外でも子どもの行動が変わったと母親から評価されています。



「目や鼻や口はどういうの?」体の部位について学ぶ

アフガニスタン

※アフガニスタンの政情不安による現地職員および関係者の安全を考慮し、国旗の掲載を控えさせていただきます。



デサブス寺子屋を訪問し情報収集するスタッフ

内戦など度重なる国難に見舞われ、読み書きができない成人が半数を超えるアフガニスタンで、2002年より、教育復興の礎となる成人識字教育や職業訓練などを実施してきました。2021年8月の政変後は、安全面からすべての活動を停止していましたが、治安の改善などを受け、2022年9月ごろから、教育省や以前事業を実施していた寺子屋を訪問するなど、事業の再開を目的とした情報収集を本格化しました。教育省との長期に渡る協議の結果、残念ながら以前のように女性を対象に含めることはできませんでしたが、男性を対象とした識字教育や職業訓練、小中学生向けの補習クラスの実施については許可を得ることができました。2023年度中に事業を再開できる見込みです。

ミャンマー



青年向けプログラムでは公衆衛生などの講習も実施していた

2017年度からヤンゴン北部のバゴー地域で、小中学校を退学して家計を助けるために働いている10～17歳の子どもたちを対象に、9ヵ月間の「継続教育プログラム」を実施していました。しかし、2021年2月の軍事クーデター以降は活動を休止しています。現地パートナーのミャンマー識字リソースセンター（MLRC）は独自の活動ができず、UNESCOやUNICEF、国際NGOの支援枠組みに参加して活動を継続しています。

現在、活動再開に向け、ミャンマー国内で地域の人びとが主体的に運営する寺子屋への支援や、バングラデシュに逃れた人びとへの教育支援の可能性について、国連機関や現地NGO、ミャンマー国内で活動する日本のNGOを通じて調査を行っています。



タンス遺産3兄弟キャラクター©DENTSU INC.

書きそんじハガキ・キャンペーン 2022

コロナでも世界の学びを止めないぞ！

総金額 約 **4781** 万円相当

件数

ユネスコ協会・クラブ	団体・企業	個人	合計件数
155件	328件	1755件	2238件

書きそんじハガキや未使用切手、金券などの「タンス遺産」を寄付に換える「書きそんじハガキ・キャンペーン」は、世界寺子屋運動を実施する上で大きな力となっています。2021年12月から開始した2022年度キャンペーンでは、「コロナでも世界の学びを止めない！」のテーマのもと、ユネスコ協会・クラブや企業、労働組合など多くの個人や団体のご協力をいただき、2238件・約4781万円相当が集まりました。



今回も全国から多くの書きそんじハガキが集められた

一杯のスプーン

みんなの「スプーン一杯分」の支援で、多くの人びとの健康状況を改善

飢えや病気で苦しむ人びとへの医療、保健および食糧支援を実施する。

事業概要

- **対象** 途上国で食糧不足に陥っている人や基礎的な医療を受けられない人びと
- **内容** アフガニスタンでは首都カブールの医療機関を通じて経済的に苦しい人びとへの医療や食糧支援を実施。ネパールでは寺子屋が実施する医療保健事業をサポート

カウンターパート：SAHA医療センター（アフガニスタン）、
ノンフォーマル教育ナショナルリソースセンター（NRC-NFE）（ネパール）

「一杯のスプーン」は、作家の犬養道子さんが提唱された活動で、1974年から始まりました。事業では、飢えや病気で苦しむ人びとへの医療、保健および食糧支援を行っています。2022年度はアフガニスタンとネパールで、経済的に貧しく、医療を受けることが難しい人びとへの支援を実施しました。

アフガニスタン

2022年度 事業成果

医療センターを受診した人	栄養失調児への支援
10万9526人	668人

10万人以上がクリニックを利用

カブール市内のクリニックにおける医療活動や薬の提供、リハビリ治療などを支援するとともに、栄養状態の悪い乳幼児へは栄養補助食品を提供しました。2022年度は10万9526人がクリニックを利用しました。



クリニックで幼い子どもを診察する医師

ネパール

2022年度 事業成果

巡回眼科検診	母子保健研修	産婦人科健診
2410人	382人	197人

巡回眼科検診に2000人以上が参加

ネパール南部のルンビニの寺子屋が行う巡回眼科検診、地域の人びとへの母子保健に関する研修や産婦人科健診を実施し、累計で2834人が参加しました。眼科検診では、緑内障の手術が必要な人が、無料で手術を受けることができました。また、寺子屋が簡易的な保健サービスを提供できるよう、血圧計や体温計などの備品を提供しました。



母子保健の研修会に集まった女性たち

未来遺産運動

地域に根ざした伝統文化や自然を次世代に

地域の有形、無形の文化や自然を100年後の子どもたちにつなぎ、伝える。

未来遺産運動は、地域の“たからもの”を未来の子どもたちに伝えたい、という想いのもと、地道な努力を続ける “人”と“活動”に光をあて、応援する事業です。地域が直面する課題に向き合い、身近な文化や自然の価値を大切に守り伝える市民の活動を「プロジェクト未来遺産」として登録しています。
2022年度はコロナ禍以来3年ぶりに「プロジェクト未来遺産」の登録事業を再開し、6件のプロジェクトが登録されました。
そのうち群馬県、千葉県および山梨県では県内初登録となりました。

事業概要

■ **対象** 市民が主体となって地域の有形文化、無形文化、自然の保護・継承に取り組む活動

■ **内容** 「プロジェクト未来遺産」の登録。未来遺産運動ニュースの配信（プロジェクト未来遺産のイベント告知、活動報告などの広報活動）。活動に参加したい個人や企業と団体をつなげる

特別協力：東日本旅客鉄道株式会社、住友ゴム工業株式会社、ジェットスター

2022年度 事業成果

「プロジェクト未来遺産2022」の登録 | **6** 件

累計成果（2009〜2022年度）

「プロジェクト未来遺産」の登録 | **79** 件（40都道府県）

「プロジェクト未来遺産2022」登録決定









1 沼須人形芝居（ぬますにんぎょうしばい）継承者プロジェクト 〜江戸時代の技を今につなぐ〜 沼須人形芝居あけぼの座（群馬県沼田市）
2 こんぶくろ池自然博物公園〜市民で育てる百年の森プロジェクト〜 特定非営利活動法人 こんぶくろ池自然の森（千葉県柏市）
3 若狭町の歴史遺産の縄文文化を全国へ 若狭三方縄文博物館友の会「DOKIDOKI会」（福井県三方上中郡若狭町）
4 源流大学〜知識だけでなく、生きた知恵を次世代へ〜 特定非営利活動法人 多摩源流こすげ（山梨県北都留郡小菅村）
5 三石（みついし）灯りの街〜子どもたちと伝える耐火煉瓦（たいかれんが）で栄えたまちの記憶〜 Mプロジェクト協議会（岡山県備前市）
6 大東太鼓（だいとうだいこ）〜北大東島の子どもたちが伝える開拓の文化〜 大東太鼓 北曜会（ほくしょかい）（沖縄県島尻郡北大東村）

「プロジェクト未来遺産」一覧（ブロック別・登録順）

2009〜2022年度 計79プロジェクト

北海道（5）

- 野生サケのふるさとウヨロ川保全調査・普及プロジェクト（北海道白老郡白老町）
- ★未来人（みらいびと）への贈り物★宗谷防人物語（そうやさきもりものがたり）（北海道稚内市）
- 知床のヒグマとともに生きていくために、全国の教室に本物を届けよう！ヒグマ授業サポートプロジェクト（北海道斜里郡斜里町）
- 絶滅危惧種イトウ（サケ科）北海道尻別川個体群の復元活動（北海道虻田郡ニセコ町）
- 昭和新山ジオツアー減災文化継承プログラム（北海道有珠郡壮瞥町）

東北（9）

- 久保川イーハトーブ世界自然再生事業（岩手県一関市）
- 稲生川（いなおいがわ）開削と三本木原（さんぼんぎはら）開拓の志を活かし、共創郷土の伝統を未来に（青森県十和田市）
- 「月浜のえんずのわわ」を未来につなげよう（宮城県東松島市）
- 新津丘陵の自然・森林・歴史遺産の保全・整備プロジェクト（新潟県新潟市）
- 町屋再生プロジェクト　市民基金設立による町屋の外観再生事業（新潟県村上市）
- おらほのながめづくり-『遠野物語』の文化的景観を守る-（岩手県遠野市）
- 気仙沼港と風待ちの風景　〜歴史的建造物の復興プロジェクト〜（宮城県気仙沼市）
- 古町花街における伝統文化と歴史的景観の保全・継承活動（新潟県新潟市）
- 秋田の聖農・石川理紀之助の教えの継承と「草木谷」の環境保全活動（秋田県潟上市）

関東（12）

- 神楽坂をますます粋に〜「粋益（いきまし）」プロジェクト（東京都新宿区）
- 水と林と田んぼのハーモニー　里山がくれた生き物と歴史の玉手箱 宍塚の自然と文化を次世代に（茨城県土浦市）
- 「谷中のたから」体験・発見・交流プロジェクト江戸〜東京のまちと自然、建物、生活文化の保全活用・体験事業〜（東京都台東区）
- 渡良瀬川源流の森再生プロジェクト―足尾銅山の荒廃地に植樹 ―（栃木県日光市）
- 水戸の歴史資産“偕楽園と弘道館”の魅力を子どもたちに伝える活動（茨城県水戸市）
- 佐野天明（命）鋳物のすぐれた伝統文化を未来につなぐ活動（栃木県佐野市）
- 世界で一つだけの「元荒川ムサシトミヨ生息地」保護活動（埼玉県熊谷市）
- 首都圏の大規模緑地・見沼たんぼを100年後の子ども達に残す（埼玉県さいたま市）
- 「雑司が谷がやがや」プロジェクト〜歴史と文化のまちづくり（東京都豊島区）
- 玉川上水・分水網の保全活用プロジェクト（東京都小平市）
- 沼須人形芝居継承者プロジェクト〜江戸時代の技を今につなぐ〜（群馬県沼田市）
- こんぶくろ池自然博物公園〜市民で育てる百年の森プロジェクト〜（千葉県柏市）

中部東（5）

- 木曽丸ごと夢作り活動（長野県木曽郡）
- 生態系豊かな森の再生と豊かな森が持つ可能性の追求（長野県上水内郡信濃町）
- ドブ川化した川を市民力を結集して蛍が乱舞する清流に再生・復活（静岡県三島市）
- 火の見櫓からまちづくり〜地域を見守る安全遺産を未来へつなぐ〜（静岡県富士市）
- 源流大学〜知識だけでなく、生きた知恵を次世代へ〜（山梨県北都留郡小菅村）

中部西（10）

- いきもの不思議の国・中池見湿地（福井県敦賀市）
- 赤瓦と煙出しの里　加賀ひがしたにの未来プロジェクト（石川県加賀市）
- 現代の癒し「布橋灌頂会（ぬのばしかんじょうえ）」を永遠に語り継ぐために！（富山県中新川郡立山町）
- 伝統行事を支えていく未来の担い手育成事業（三重県名張市）
- 越前にコウノトリ呼び戻す田んぼファンクラブ（福井県越前市）
- みんなの手で守り、未来に伝える！日本の原風景『丸山千枚田』（三重県熊野市）
- 愛知万博の理念と成果の継承〜海上（かいしょ）の森・保全活用プロジェクト〜（愛知県瀬戸市）
- 福野夜高祭〜「災厄からの復興の心」を引き継ぐプロジェクト〜（富山県南砺市）
- 美濃流し仁輪加〜地方に華咲く言葉の文化〜（岐阜県美濃市）
- 若狭町の歴史遺産の縄文文化を全国へ（福井県三方上中郡若狭町）

近畿（9）

- 葵プロジェクト（京都府京都市）
- ならまち　わらべうたフェスタ（奈良県奈良市）
- 孟子不動谷生物多様性活性化プロジェクト（和歌山県海南市）
- 天神崎（てんじんざき）の自然の維持と環境教育の推進（和歌山県田辺市）
- ニッポンバラタナゴを守る伝統的な溜池浄化法“ドビ流し”の継承（大阪府八尾市）
- いやしの里深野を目指して。希少になったササユリ保護・増殖活動（奈良県宇陀市）
- 銀の馬車道プロジェクト〜日本初の高速産業道路を未来につなぐ〜（兵庫県姫路市）
- 湖国の原風景権座（ごんざ）水郷を守り育てる活動（日本の里百選）選定地域（滋賀県近江八幡市）
- 京都桂川の生物多様性保全－カヤネズミのすむ茅原を未来へつなぐ（京都府京都市）

四国（5）

- みんなでかぶこう!!プロジェクト〜農村歌舞伎祇園座（香川県高松市）
- 世界に伝えたい!!阿波人形浄瑠璃の魅力未来遺産プロジェクト（徳島県徳島市）
- 次世代につなごう!!「千年サンゴ」保全プロジェクト（徳島県海部郡牟岐町）
- 美の里を未来へ　石畳地区・村並み保存活動（愛媛県喜多郡内子町）
- 未来へつなぐ子ども達の健康と健やかな成長を 〜田井の子供神相撲〜（香川県高松市）

中国（11）

- 日本の記憶が息づく島ＯＫＩを守り伝えるプロジェクト（島根県隠岐郡隠岐の島町）
- このままの鞆（とも）がいい！住民の手による歴史的港湾都市「鞆の浦」の歴史・文化・自然の継承と再生（広島県福山市）
- 未来につなごう！尾道・坂の町再生プロジェクト（広島県尾道市）
- 笑い講とお笑い講で世界中に笑いを広める運動（山口県防府市）
- 英田（あいだ）上山棚田再生プロジェクト〜未来へつなぐ棚田8300枚〜（岡山県美作市）
- まちにあかりを灯すプロジェクト（岡山県倉敷市）
- 椹野川（ふしのがわ）もり・かわ・うみを再生し人と人をつなぐプロジェクト（山口県山口市）
- 萩のおたからにみんなで親しみ、みんなに広めるプロジェクト（山口県萩市）
- 被爆樹木が世界に伝える未来へのメッセージ「平和・希望・共生」（広島県広島市）
- 山口鷺流狂言伝承者育成プロジェクト〜子ども達に残す鷺流狂言〜（山口県山口市）
- 三石灯りの街〜子どもたちと伝える耐火煉瓦で栄えたまちの記憶〜（岡山県備前市）

九州（13）

- 八女（やめ）福島 空き町家と伝統工法の再生による町並み文化の継承（福岡県八女市）
- 現代版組踊「肝高の阿麻和利（あまわり）」と「キムタカのマチづくり」（沖縄県うるま市）
- 阿蘇千年の草原を未来へ引き継ごう（熊本県阿蘇市）
- 未来に遺す「生きた鉄道博物館〜100年レイル肥薩線への情熱〜」（熊本県人吉市）
- 千年の時を刻む荘園村落遺跡「田染荘（たしぶのしょう）小崎」（大分県豊後高田市）
- 生きもの元気、子どもも元気、漁師さんも元気な中津干潟保全活動（大分県中津市）
- 鬼と炎が舞う長岩屋修正鬼会（ながいわやしゅじょうおにえ）（大分県豊後高田市）
- 博多湾・和白（わじろ）干潟の自然保護活動（福岡県福岡市）
- 肥前浜宿の歴史的まちなみの保存と醸造文化の継承（佐賀県鹿島市）
- 子供と命をつなぐ ジッキョヌホーのトウギョの里プロジェクト（鹿児島県大島郡知名町）
- 「くも合戦」保存プロジェクト（鹿児島県姶良市）
- 創作組踊「糸蒲の縁（いとかまのえん）」で地域の子ども達を育み新たな文化を繋ぐ（沖縄県中頭郡中城村）
- 大東太鼓〜北大東島の子どもたちが伝える開拓の文化〜（沖縄県島尻郡北大東村）

世界遺産活動

カンボジア「アンコール教育教材開発プロジェクト」

世界遺産に触れ、地域の文化を守る心を育む



カンボジアの子どもたちに自国の歴史・文化を学び、継承してもらう。

世界遺産とは“人類共通の遺産”であり、未来の世代に引き継いでいくべきかけがえのないたからものです。当連盟が行う世界遺産活動は、主に途上国の世界遺産を対象とし、その国の中で遺産を守り、次の世代へ引き継いでいけるように、人材育成や教材開発など、草の根レベルで継承システムを構築していくことを目指しています。
このような考えのもと、カンボジアでは2009年より、子どもたちに自国の世界遺産を学び直接触れる機会を提供しています。

事業概要

■ **対象** カンボジアの世界遺産「アンコール」遺跡群の近隣9つの寺子屋に通う子どもたち、世界遺産教育の指導者

■ **内容** 世界遺産教育教材（塗り絵教材）の開発、指導者研修、アンコール遺跡群の寺院についての授業の実施、遺跡を巡る訪問学習の実施

2022年度 事業成果

世界遺産訪問学習（スタディビジット）参加者数
9つの寺子屋 18クラス・261人

塗り絵教材配布数
1225冊

指導者研修会参加者数
28人（寺子屋の教員18人、公立小学校の教員10人）

世界遺産を守る担い手を育てる指導者研修会を実施

2022年度は、世界遺産教育の授業や遺跡への訪問学習に700人以上の子どもたちが参加したほか、子どもたちに世界遺産を守る心を育んでもらうための指導者研修会も実施しました。指導者研修会には寺子屋の先生だけでなく公立小学校の先生も参加。専門家の指導のもと、遺跡の歴史や塗り絵の技法、授業の進め方を学びました。先生同士で模擬授業を行い、塗り絵教材に描かれた遺跡を実際に訪れるなど、自分の目で見て体験することで、より質の高い授業になることを目指しています。



指導者研修会で先生方は塗り絵の技法などを学んだ

これまでに実施した世界遺産活動

「バイヨン寺院シンハ像・ナーガ像彫像修復プロジェクト」（カンボジア）

カンボジアでは、「アンコール教育教材開発プロジェクト」の他に、2012年から2020年まで標記プロジェクトを実施しました。世界遺産「アンコール」遺跡群のひとつバイヨン寺院のナーガ像73体、シンハ像23体、欄干の721部材の修復を行うとともに、それに係る技能員を育成。未経験から遺跡修復の現場を支える人材となったカンボジア人技能員は、現在も修復作業に携わっています。
その他、主に自国だけでは保護・保全が難しい途上国の危機的な状況にある世界遺産を対象に、世界遺産の保護・保全活動や人材育成、普及啓発活動などを支援してきました。

2000年以降に支援した主な世界遺産

- 「アンコール」（カンボジア）
- 「バガン遺跡」（ミャンマー）
- 「フィリピン・コルディリェーラの棚田群」（フィリピン）
- 「古都ホイアン」（ベトナム）
- 「バーミヤン渓谷の文化的景観と古代遺跡群」（アフガニスタン）
- 「カトマンズの谷」（ネパール）
- 「仏陀の生誕地ルンビニ」（ネパール）

三菱アジア子ども絵日記フェスタ

子どもたちの絵日記を通じた国際理解教育

絵日記を通じてアジアの子どもたちがお互いの文化を知り、尊重しあう心を育む。

2021年から2022年にかけて行われた第15回目の事業について、日本で実施予定だった各国グランプリ受賞者の表彰式は新型コロナウイルスの影響で中止になりました。しかしながら、2022年9月に日本国内でグランプリを含む優秀賞を受賞した8人による国内表彰式を、神奈川県横浜市で実施しました。これにあわせて、横浜市の商業施設でグランプリ受賞者の絵日記作品をパネル展示しました。パネル展示会は福岡市などのSDGsイベントなどでも行い、多くの人びとが足を止めていました。



国内表彰式を横浜市で実施

事業概要

■ **対象** アジアの24の国と地域の子ども（6〜12歳）

■ **内容** 1990年にスタートしたアジア各国の子どもたちが描いた絵日記を募集する事業。各国のグランプリ受賞作品の展示会や国際表彰式を実施。2023年度は絵日記事業のPR期間とし、2024年から第16回事業の絵日記募集を開始する予定

共催：三菱広報委員会、アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟

2021-2022年度 事業成果

参加国・地域
21カ国1地域

参加者数
2万7223人

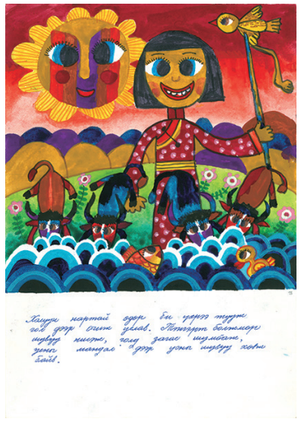
累計応募者数
84万4765人



インドネシア
イ・プトゥ・バグス・サストラ・ヴィダンタ・ウィヤサ（11歳 受賞当時）
伝統的な「バロン・バクン」というお祭りやその際に使われる仮面について描いています。



カザフスタン
サモイロヴァ・ダリヤ・オレグヴォナ（11歳 受賞当時）
人生で一番幸せな瞬間である弟の誕生を描いた作品です。



モンゴル
アヌ・ウジン・エンクトゥル（9歳 受賞当時）
暑い晴れた日に牛を川に連れて行ったときの様子を描いています。

ユネスコスクール SDGsアシスト プロジェクト

教育の未来を見据えて SDGsの課題に取り組む

UNESCOの「教育の未来報告書」を踏まえて、学校で行うSDGsの各課題への取り組みを推進する。

助成金を活用し、助成校はそれぞれの個性を生かしながらSDGs達成に向けた取り組みを行いました。また、2021年度に好評を得たオンラインによる「活動発表会」の対象を、小学校だけでなく中学・高校にも広げたことで、文部科学省も推進するユネスコスクール同士の交流・連携の強化につながりました。さらに、各校の活動の様子が新聞等のメディアにも取り上げられる機会が増え、社会の関心も高まっています。

事業概要

■ **対象**
ユネスコスクールおよびユネスコスクール・キャンディデート※
※ユネスコスクール・キャンディデートとは、チャレンジ期間を終了し国内審査を終え、UNESCOに申請中（または行う）段階にある学校。

■ **内容**
取り組みに必要な教材費や活動費を助成（10万円/校 ※30万円/校のケースもある）、活動発表会を実施

協力：株式会社三菱UFJ銀行／後援：日本ユネスコ国内委員会

2022年度 事業成果

助成校	参加した児童・生徒
78校	約1万3000人

累計成果（2009〜2022年度）

助成校
1215校

助成校の活動事例

私たちの町や自然をもっと豊かにしよう

十日町市立飛渡（とびたり）第一小学校（新潟県）

■ **対象** 全学年11人、その他230人（保護者、地域住民など）

ブナ林体験活動、米や野菜の栽培・販売活動（販売の収益金を老人ホーム・病院との交流資金に充てた）、サケの飼育活動を行いました。漁協組合、福祉会、企業、病院など、多くの機関と協働して活動するとともに、学習発表会で地元住民の方に飛渡川の保全を呼び掛けるなど、学習を通して地元の自然や人びととの絆を深めました。



自分たちで栽培した野菜を販売し、地域の方々と交流した

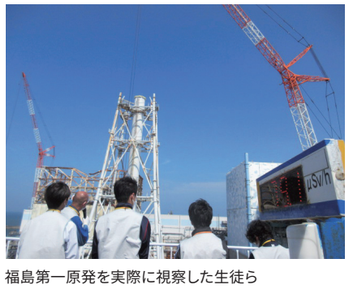
助成校の活動事例

国際理解・地域理解を中心に据えたESD・SDGsの推進

福島県立安達高校（福島県）

■ **対象** 全学年450人、その他30人（地域住民、保護者）

京都の学校の生徒と「10年後の福島」について議論したほか、福島第一原発に関する講義を受けたり、現地を視察したりしました。この経験を公開発表会やユネスコスクール北海道・東北ブロック大会で口頭・ポスターなどで発表し、幅広い地域の人びととの交流・発信を行いました。



福島第一原発を実際に視察した生徒ら

高校生カンボジア オンライン スタディツアー

私も、あなたも、「世界の中の一人」を実感

教育・国際協力の視点からカンボジアが抱える課題を学び、国際理解を深めるとともに、自分たちができることを考える。

日本の高校生がオンラインで、寺子屋の中継や寺子屋学習者の自宅訪問を行いました。基礎教育支援の現場や、人びとの生活の様子を見ることで、国際理解を深め、多文化共生の意識を高めました。参加した生徒たちはカンボジアとのリアルタイムの交流から、お互いの生活習慣や環境の違いを学ぶと同時に、家族を大切にするなどの普遍的な思いも共有しました。ツアー参加経験を生かした事後活動にも力を入れ、各参加校が充実した取り組みを行いました。

事業概要

■ **対象** ユネスコスクール（キャンディデート校含む）または「世界寺子屋運動」関連事業参加実績がある高校（2021年度から）

■ **内容** 高校生がカンボジアを訪れ、寺子屋の授業見学や世界遺産見学、現地の人との交流や寺子屋学習者の家庭訪問を実施。2020年度以降は、コロナ禍により内容を一部変更しオンラインで実施

協賛：公益財団法人かめのり財団

2022年度 事業成果

参加校 8校　参加人数 20人

累計成果（2014〜2022年度）

参加者 約378人（うち約320人はオンラインツアーへの参加）

カンボジアの人びととの交流からパートナーシップ精神を育む

例年以上に、相互交流と事後活動が特徴的なツアーとなりました。日本・カンボジア両国の参加者が、「私たちの宝物」「私たちの理想の未来」を描いた絵を使って意見交換した際は、周囲の人を大切にし、未来に希望をもつという共通点が現れ、お互いに親近感を覚えていました。学びを生かす事後アクションでは、カンボジアの寺子屋や識字状況などの発表、書きそんじハガキを呼びかけるなど、自分にできることを学校や社会に還元しました。



当日のダイジェスト映像 ▶
YouTubeで全編バージョンも公開しています

「私たちの理想の未来」を描いた絵を発表し合った

寺子屋リーフレット制作プロジェクト

1枚のリーフレットから、世界を変えたい

子どもたちが世界の識字問題を通して現状について学び、気づき、行動する力を育む。

2022年度も、当プロジェクトの20周年記念（2003年度開始）にふさわしい、児童・生徒の強い思いが込められた力作がそろいました。また、オンラインを活用したキックオフ会（教員向け）の開催や、リーフレットを制作した児童・生徒が近隣の学校で出前授業を行うことにより、交流の活発化や、活動の輪が広がることにつながりました。

事業概要

■ **対象** 小学校、中学校、高等学校

■ **内容** 識字問題や就学率をはじめとした教育（SDGsの目標4）に関する世界的課題を学んだ子どもたちが、「世界寺子屋運動」を支える「書きそんじハガキ・キャンペーン」のリーフレットを、デジタル機器を用いて制作。完成したリーフレットを活用して書きそんじハガキを集める活動を各校で実践

共催：一般社団法人デジタル表現研究会（D-project）

2022年度 事業成果

参加校	参加した児童・生徒
26校	約1850人

累計成果（2003〜2022年度）

参加校
553校

リーフレット制作で世界の識字問題にアプローチ

参加した児童・生徒は、8月に実施した「高校生カンボジアオンラインスタディツアー」も活用しながら、教育における世界的課題に向き合い、自分たちにできることを考えて行動しました。近隣の学校に出前授業に行ったり、地域の人にも書きそんじハガキの回収を呼び掛けたりするなど、リーフレットの制作にとどまらず、その先を見据える子どもたちの姿がありました。



2022年度最優秀賞（日本ユネスコ協会連盟賞）
徳島文理中学校・高等学校 BTP（中学生・高校生による合作）

ユネスコ協会・ウクライナ緊急募金

平和を取り戻すための連帯と行動を継続

ウクライナ避難民の生活を支援する。

2022年2月4日に始まったロシアによるウクライナ侵攻を受け、2月27日「ウクライナの危機に関する声明」を発表しました。現在、ヨーロッパ全体で約800万人がウクライナから逃れてきており、そのうち隣国に500万人が逃れているとされます。ウクライナ国内の避難民も300万人にのぼります。当連盟はこれまでに全国から寄せられた8200万円以上のご寄付で、ウクライナ国内および国境地域での避難民支援を実施しました。

事業概要

- **対象** ウクライナ（西部ザカルパッチャ州）の国内避難民およびルーマニアへの避難民
- **内容** ウクライナ西部のザカルパッチャ州とルーマニアにおける避難民（とくに女性や子ども、高齢者）への食糧や生活物資などの支援のほか、子どもたちの心理的なケアを目的とした絵画展や旅行などの支援

カウンターパート：アルムナス・ユネスコ・クラブ（ルーマニア）、シグヌス科学ユネスコ協会（ルーマニア）、ピープルインニード・スロバキア（スロバキア）

2022年度 事業成果

ウクライナおよびルーマニアで宿泊や食糧支援、生活物資、心理ケアなどを受けた人びと 約2万2000人

ウクライナ国内にとどまる避難民への支援

ウクライナ西部のザカルパッチャ州で、食糧支援やベッド、シーツ、衣料品などの生活用品の支援を行いました。さらに、避難民支援を行う他団体を通じて、国内の別の場所から逃れてきたスポーツ選手への用具の提供、子どもたちが遊べるスペースの提供、オンライン授業のためのパソコン購入、ホスピタル・クラウン（病院で慈善活動をする道化師）による子どものケアなどを実施しました。



愉快なクラウンと一緒に遊ぶウクライナの子どもたち
©People in Need Slovakia

隣接国ルーマニアに逃れた避難民への支援

ルーマニアで生活しているウクライナ避難民の子どもたちを対象に、小旅行や絵画・工作のワークショップを開催しました。また、子どもたちの誕生日会やイースター、クリスマスのイベントを実施しました。子どもたちは、慣れないルーマニアでの生活のなかで、旅行やイベントを通じて社会的なつながりを持つことができました。



誕生日会では特製のケーキが振る舞われた
©Association Alumnus Club for UNESCO

避難民の心理的なケアにつながる支援

避難民の子どもたちのための絵画イベント「Hope for Peace」をルーマニアのブカレストの美術団体と協働して実施。ウクライナの平和を願う38作品が集まり、参加賞やグランプリ受賞者への表彰式を実施しました。また、作品を応募した子どもたちと保護者がルーマニアの古都トゥルゴヴィシュテの史跡や美術館を訪問し、家族で楽しい時間を過ごすことができました。



悲しみのなか平和な世界を願う絵画が集まった





トルコ・シリア大地震への緊急支援



トルコのオスマニエで避難している家族©Peace Winds

2023年2月6日にトルコ、シリアで発生した未曽有の大地震に対し、人道的観点から、被災された両国の方々へ少しでも手を差し伸べるべく緊急支援を広く呼びかけました。

お寄せいただいた寄付金は、緊急支援活動の活動資金（食料、シェルター、生活必需品、水・衛生、保健・医療、教育など）として、6月12日までに全額を「特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム」に送金しました。



被災したオスマニエの町©Peace Winds

募金受付期間 2023年2月16日～5月31日

募金額 1426万6284円

募金の寄付先 JAPAN PLATFORM® 特定非営利活動法人 ジャパン・プラットフォーム

団体概要

名称　公益社団法人日本ユネスコ協会連盟
創立　1948 年 5 月 1 日
代表者　佐藤美樹（よしき）
所在地　東京都渋谷区恵比寿 1-3-1　朝日生命恵比寿ビル 12 階

日本ユネスコ協会連盟の会員構成

●構成団体会員
UNESCO憲章の精神に則り、民間ユネスコ運動を推進するために設立されたユネスコ協会・クラブ、都道府県ユネスコ連絡協議会及び全国的青年連絡組織。

●維持会員
この法人の目的、事業に賛同し、ユネスコ活動に貢献し得る企業・団体。

●賛助団体会員
この法人の目的、事業に賛同し、ユネスコ活動に寄与する教育、科学、文化その他の団体。

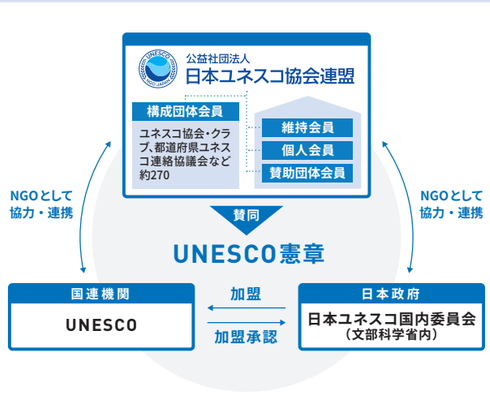
●個人会員
ユネスコ活動にとくに貢献し得る個人。

UNESCO と日本ユネスコ協会連盟 創設のあゆみ（太字は民間ユネスコ運動の動きです）

1945年11月16日　UNESCO憲章採択
1946年11月 4日　UNESCO創設
1947年 7月19日　仙台ユネスコ協力会（当時）発足
1947年11月27日　第1回ユネスコ運動全国大会開催
1948年 5月 1日　日本ユネスコ協力会連盟（当時）結成
1951年 7月 2日　日本のUNESCO加盟
1951年 8月14日　日本ユネスコ協会連盟に改組
1956年12月18日　日本の国際連合加盟

一人ひとりが平和の担い手

UNESCOは政府間組織ですが、UNESCO憲章では、平和な世界を実現するには各国政府のみならず、市民の協力が必要だと謳っています。UNESCO 憲章が求める人類の知的・精神的連帯は、世界の人びとの理解と共感があって初めて可能になるからです。



世界に広がる民間ユネスコ運動のネットワーク

アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟（AFUCA）は、1974 年に創設され、アジア地域での民間ユネスコ運動に重要な役割を果たしています。また、世界ユネスコ協会クラブ・センター連盟（WFUCA）は 1981 年に設立され、2023 年 5 月現在、84ヵ国で 4131 のユネスコ協会やクラブが活動しています。

全国ユネスコ協会・クラブ一覧（272団体／2023年6月1日現在）

北海道ブロック（20）

北海道ユネスコ連絡協議会
旭川ユネスコ協会
岩内ユネスコ協会
小樽ユネスコ協会
帯広ユネスコ協会
釧路ユネスコ協会
札幌ユネスコ協会
千歳ユネスコ協会
函館ユネスコ協会
室蘭ユネスコ協会
石狩ユネスコ協会
江別ユネスコ協会
名寄ユネスコ協会
苫小牧ユネスコ協会
倶知安ユネスコ協会
恵庭ユネスコ協会
知床ユネスコ協会
稚内ユネスコ協会
北広島ユネスコ協会
江差ユネスコ協会

東北ブロック（45）

（一社）青森県ユネスコ協会
岩手県ユネスコ連絡協議会
釜石ユネスコ協会
北上ユネスコ協会
花巻ユネスコ協会
前沢ユネスコ協会
水沢ユネスコ協会
盛岡ユネスコ協会
陸前高田ユネスコ協会
久慈ユネスコ協会
東山ユネスコ協会
川崎ユネスコ協会
宮古ユネスコ協会
江刺ユネスコ協会
二戸市ユネスコ協会
平泉ユネスコ協会
一関ユネスコ協会
遠野ユネスコ協会
千厩ユネスコ協会
大船渡ユネスコ協会
浄法寺ユネスコ協会
滝沢ユネスコ協会
衣川ユネスコ協会
一戸ユネスコ協会
宮城県ユネスコ連絡協議会
気仙沼ユネスコ協会
白石ユネスコ協会
（公社）仙台ユネスコ協会
塩釜ユネスコ協会
富谷ユネスコ協会
みやぎ北ユネスコ協会
秋田県ユネスコ連絡協議会
秋田ユネスコ協会
横手ユネスコ協会
酒田ユネスコ協会
福島県ユネスコ連絡協議会
須賀川地方ユネスコ協会
福島ユネスコ協会
会津ユネスコ協会
いわきユネスコ協会
白河ユネスコ協会
郡山ユネスコ協会
郡山次世代ユネスコ協会
（一社）新潟市ユネスコ協会
佐渡ユネスコ協会

関東ブロック（70）

茨城県ユネスコ連絡協議会
土浦ユネスコ協会
ひたちなかユネスコ協会
北茨城ユネスコ協会
水戸ユネスコ協会
茨城県西地方ユネスコ協会
栃木県ユネスコ連絡協議会
足利ユネスコ協会
佐野ユネスコ協会
日光ユネスコ協会
開倫ユネスコ協会
群馬県ユネスコ連絡協議会
太田ユネスコ協会
桐生ユネスコ協会
沼田ユネスコ協会
前橋ユネスコ協会
大泉ユネスコ協会
安中碓氷ユネスコ協会
伊勢崎ユネスコ協会
高崎ユネスコ協会
富岡ユネスコ協会
藤岡地方ユネスコ協会
館林ユネスコ協会
埼玉県ユネスコ連絡協議会
寄居地方ユネスコ協会
認定NPO法人さいたまユネスコ協会
深谷地方ユネスコ協会
越谷ユネスコ協会
蓮田・白岡地方ユネスコ協会
秩父ユネスコ協会
千葉県ユネスコ連絡協議会
柏ユネスコ協会
木更津ユネスコ協会
千葉ユネスコ協会
成田ユネスコ協会
富里ユネスコ協会
（特非）市川市ユネスコ協会
浦安市ユネスコ協会
四街道市ユネスコ協会
船橋ユネスコ協会
八街ユネスコ協会
香取・佐原ユネスコ協会
八千代ユネスコ協会
東京都ユネスコ連絡協議会
朝日生命ユネスコクラブ
（特非）目黒ユネスコ協会
ふるさと東京ユネスコ協会
小平ユネスコ協会
まちだ・さがみユネスコ協会
港ユネスコ協会
渋谷ユネスコ協会
大田ユネスコ協会
ユネスコ・アルムニ・クラブ
杉並ユネスコ協会
（特非）としまユネスコ協会
スプリングユネスコクラブ
武蔵野ユネスコ協会
玉川大学ユネスコクラブ
全国的青年連絡組織
（特非）平和の文化東京ユネスコクラブ
（特非）維新隊ユネスコクラブ
学び舎江戸東京ユネスコクラブ
（一社）新宿ユネスコ協会
（特非）舞音の守ユネスコクラブ
スポーツと平和を考えるユネスコクラブ
ミンガラバー・ユネスコクラブ
ICUユネスコクラブ
立川ユネスコ協会
立教セカンドステージ大学ユネスコクラブ
中央区ユネスコ協会

中部東ブロック（21）

神奈川県ユネスコ連絡協議会
厚木ユネスコ協会
横浜ユネスコ協会
（特非）鎌倉ユネスコ協会
山梨県ユネスコ連絡協議会
甲府ユネスコ協会
山梨市ユネスコ協会
富士川町ユネスコ協会
忍野ユネスコ協会
長野県ユネスコ連絡協議会
飯田ユネスコ協会
松本ユネスコ協会
（特非）木曽ユネスコ協会
諏訪ユネスコ協会
静岡県ユネスコ連絡協議会
磐田ユネスコ協会
清水ユネスコ協会
浜松ユネスコ協会
（特非）静岡ユネスコ協会
沼津ユネスコ協会
伊豆ユネスコクラブ

中部西ブロック（21）

富山県ユネスコ連絡協議会
富山ユネスコ協会
富山ユネスコ協会青年部
氷見ユネスコ協会
南砺ユネスコ協会
石川県ユネスコ協会
ふくいユネスコ協会
岐阜県ユネスコ協会
高山ユネスコ協会
大垣ユネスコ協会
各務原ユネスコ協会
ユネスコクラブ日本ライン
名古屋ユネスコ協会
豊橋ユネスコ協会
三重県ユネスコ連絡協議会
名張ユネスコ協会
津ユネスコ協会
紀北町ユネスコ協会
亀山ユネスコ協会
松阪ユネスコ協会
菰野ユネスコ協会

近畿ブロック（43）

長浜ユネスコ協会
彦根ユネスコ協会
京都府ユネスコ連絡協議会
ユネスコ京都クラブ
舞鶴ユネスコ協会
福知山ユネスコ協会
京都ユネスコ協会
大阪府ユネスコ連絡協議会
エリーニ・ユネスコ協会
（特非）大阪ユネスコ協会
堺ユネスコ協会
箕面ユネスコ協会
（一社）大阪北河内ユネスコ協会
兵庫県ユネスコ連絡協議会
芦屋ユネスコ協会
尼崎ユネスコ協会
神戸ユネスコ協会
三田ユネスコ協会
宝塚ユネスコ協会
西宮ユネスコ協会
伊丹ユネスコ協会
相生ユネスコ協会
川西ユネスコ協会
丹波篠山ユネスコ協会
姫路ユネスコ協会
三木市ユネスコ協会
淡路島ユネスコ協会
奈良県ユネスコ連絡協議会
奈良ユネスコ協会
天理ユネスコ協会
斑鳩ユネスコ協会
吉野ユネスコ協会
飛鳥・橿原ユネスコ協会
和歌山県ユネスコ連絡協議会
和歌山ユネスコ協会
橋本ユネスコ協会
紀南ユネスコ協会
紀北ユネスコ協会
貴志川ユネスコ協会
那賀・青洲ユネスコ協会
新宮ユネスコ協会
岩出ユネスコ協会
伊都・高野山ユネスコ協会

中国ブロック（27）

鳥取県ユネスコ連絡協議会
鳥取ユネスコ協会
米子ユネスコ協会
倉吉ユネスコ協会
出雲地区ユネスコ協会
石見地区ユネスコ協会
岡山県ユネスコ連絡協議会
津山ユネスコ協会
岡山ユネスコ協会
倉敷ユネスコ協会
広島県ユネスコ連絡協議会
尾道ユネスコ協会
広島ユネスコ協会
宮島ユネスコ協会
東広島ユネスコ協会
因島ユネスコ協会
山口県ユネスコ連絡協議会
宇部ユネスコ協会
下関ユネスコ協会
下関ユネスコ協会青年部
徳山ユネスコ協会
長門ユネスコ協会
萩ユネスコ協会
光ユネスコ協会
山口ユネスコ協会
岩国ユネスコ協会
防府ユネスコ協会

四国ブロック（12）

徳島ユネスコ協会
香川県ユネスコ連絡協議会
高松ユネスコ協会
高松ユネスコクラブ
丸亀ユネスコ協会
愛媛県ユネスコ連絡協議会
大洲ユネスコ協会
北条ユネスコ協会
松山ユネスコ協会
今治ユネスコ協会
新居浜ユネスコ協会
四国中央ユネスコ協会

九州ブロック（13）

久留米ユネスコ協会
大牟田地方ユネスコ協会
佐賀ユネスコ協会
熊本ユネスコ協会
大分県ユネスコ協会連盟
おおいた草の根ユネスコ協会
日南ユネスコ協会
延岡ユネスコ協会
都城ユネスコ協会
鹿児島ユネスコ協会
徳之島ユネスコ協会
沖縄県ユネスコ協会
沖縄でいごユネスコ協会

（一社）…一般社団法人、（公社）…公益社団法人、（特非）…特定非営利活動法人、認定 NPO 法人…認定特定非営利活動法人

維持会員／賛助団体会員（2023年6月1日現在　五十音順　敬称略）

維持会員（141）

株式会社ＩＨＩ／あいおいニッセイ同和損害保険株式会社／旭化成株式会社／朝日生命保険相互会社／朝日不動産管理株式会社／朝日ライフ アセットマネジメント株式会社／株式会社ADEKA／株式会社アドバンテスト／株式会社アルファ／株式会社ECC／株式会社インフォテクノ朝日／株式会社ウィザス／ANAホールディングス株式会社／エクシオグループ株式会社／株式会社 SBI 新生銀行／ NPO 法人エスピーシーネットワーク／ NHS インシュアランスグループ株式会社／ＮＸ商事株式会社／エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社／エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社／株式会社エヌ・ティ・ティ・データ／株式会社 NTT ドコモ／エヌ・ティ・ティ都市開発株式会社／NTTファイナンス株式会社／株式会社NTTファシリティーズ／株式会社F.L.P／MITホールディングス株式会社／株式会社オーシーエス／株式会社大塚商会 城西営業部 渋谷支店／株式会社岡三証券グループ／沖縄ツーリスト株式会社／株式会社オリエントコーポレーション／特定非営利活動法人 音楽は平和を運ぶ／花王株式会社／株式会社カスタムライフ／関東電化工業株式会社／株式会社かんぽ生命保険／北日本ビル管理株式会社／株式会社紀伊國屋書店／キヤノン株式会社／共同印刷株式会社／協和キリン株式会社／株式会社クオリアート／株式会社クラウン・クリエイティブ／株式会社クラウン・パッケージ／株式会社クレスコ／株式会社クレディセゾン／黒田精工株式会社／京王電鉄株式会社／株式会社講談社／株式会社幸美グラフィス／国際セーフティー株式会社／サービス・ツーリズム産業労働組合連合会／三幸株式会社／株式会社シーイーシー／ JTB グループ労働組合連合会／株式会社四国銀行／株式会社資生堂／清水建設株式会社／学校法人尚志学園／城北化学工業株式会社／株式会社白橋／新光電気工業株式会社／新菱冷熱工業株式会社／西武信用金庫／清和綜合建物株式会社／株式会社セーフティ／株式会社セブン&アイ・ホールディングス／全国税理士共栄会／税理士法人添石綜合会計事務所／株式会社タイキ／大和証券株式会社／中央日本土地建物株式会社／中部日本放送株式会社／株式会社千代田組／株式会社TBSホールディングス／帝人株式会社／株式会社ディッジ／株式会社電通／東急建設株式会社／東急不動産ホールディングス株式会社／東京海上日動火災保険株式会社／東京書籍株式会社／株式会社東京ドーム／東武鉄道株式会社／東洋埠頭株式会社／株式会社東横イン／ TOPPAN エッジ株式会社／なないろ生命保険株式会社／西日本電信電話株式会社／株式会社日税ビジネスサービス／ニチモウ株式会社／NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社／日本化薬株式会社／日本軽金属株式会社／日本ゼオン株式会社／日本電信電話株式会社／日本ピストンリング株式会社／日本放送協会／日本空港ビルデング株式会社／日本農薬株式会社／日本メディカルシステム株式会社／野村ホールディングス株式会社／株式会社バウコミュニケーションズ／株式会社バンザイ／東日本電信電話株式会社／東日本旅客鉄道株式会社／株式会社日立製作所／株式会社ビデオプロモーション／日比谷総合設備株式会社／株式会社フェドラ／富士オフィス&ライフサービス株式会社／富士急行株式会社／富士通株式会社／株式会社富士通エフサス／株式会社富士通ゼネラル／株式会社フジ・メディア・ホールディングス／古河機械金属株式会社／古河電気工業株式会社／株式会社ブロードリンク／株式会社プロジェクトパーク／マイスター会計事務所／株式会社増田屋コーポレーション／三井住友カード株式会社／ミツイワ株式会社／三菱地所株式会社／三菱重工業株式会社／三菱商事株式会社／株式会社ミライト・ワン／株式会社ミロク情報サービス／株式会社ムクダ／メッドサポートシステムズ株式会社／モリリン株式会社／株式会社ヤクルト本社／山崎製パン株式会社／横浜ゴム株式会社／レイ法律事務所／株式会社レインボー・ジャパン／匿名3社

賛助団体会員（18）

ICOM 日本委員会／ OMEP 日本委員会／ NPO 法人関西国際交流団体協議会／一般社団法人国立大学協会／特定非営利活動法人としま NPO 推進協議会／一般財団法人日本エスペラント協会／公益社団法人日本空手協会／協同組合日本脚本家連盟／一般社団法人日本国際児童図書評議会／ NPO 法人日本国際文化遺産協会／一般社団法人日本コミュニティ放送協会／公益社団法人日本造園学会／公益社団法人日本図書館協会／一般社団法人日本の節句文化を継承する会／公益社団法人日本バリュー・エンジニアリング協会／一般社団法人日本美術家連盟／公益財団法人野村生涯学習教育センター／ WARD 世界子孫代理人会

サポーター

UNESCO憲章の理念に賛同し、何年にもわたって民間ユネスコ運動を支えてくださっている方々をご紹介します。



ユネスコ世界寺子屋運動
広報特使
久保 純子さん



ヴァイオリニスト
UNESCO平和芸術家
二村 英仁さん



元UNESCO
スポーツ・チャンピオン
宮城野親方（元横綱・白鵬関）

企業・団体との連携

2022年度も多くの企業・団体にご協力いただきました。

日本ユネスコ協会連盟は、UNESCO 憲章に基づき、志を同じくする人びとや企業・団体と連携して国内外で活動を続けています。

あいおいニッセイ同和損保 MS&AD INSURANCE GROUP
AXA アクサ生命
獺祭
朝日生命
ADEKA Add Goodness
ADVANTEST
SPC GLOBAL
NTT docomo
KADOKAWA
SANKO INC. 三幸株式会社
Jetstar
Shinnyo 真如苑
スカパーJSAT
DUNLOP
名古屋国際センター NAGOYA INTERNATIONAL CENTER
JR東日本
HIBIYA
ほるぷA&I
三菱広報委員会
MUFG 三菱UFJ銀行
MUFG 三菱UFJニコス
MUFG 三菱UFJフィナンシャル・グループ
Asahi
KPMG
ANA
株式会社クラウン・パッケージ
KOUMEI
CEC Computer Engineering & Consulting
しんきんカードグループ
ララコープ
SEIBU 西武信用金庫
信用金庫
電力総連
AFU
日税グループ
NX NIPPON EXPRESS
日本軽金属
公益財団法人 日本相撲協会
ZEON
NTT
PIECE OF PEACE
BANZAI
FOREVER
古河機械金属
古河電工
ブルーチップ
BearCeréju
Y! ネット募金
GIANTS

※企業・団体名の五十音順

寄付方法のご案内

日本ユネスコ協会連盟の活動は、皆さまからのご寄付により実施しています。
私たちの活動の基本姿勢はコーアクション（Co-Action＝ともに行動する）です。
ともに社会課題を解決し、平和な世界を築くパートナーとして、皆さまのご協力をお願いします。

寄付で実現すること

3000円のご寄付で

ネパールの子どもが学習するための教科書	16冊分
カンボジアで学ぶ子どものための給食	11食分

5000円のご寄付で

カンボジアで子どもたちが世界遺産を訪問し学習する	5人分
48人のご寄付（24万円）で被災地の子どもを奨学金で進学サポート	1人を1年間

10000円のご寄付で

アフガニスタンで栄養失調の子どものための食糧セット	10人分
寺子屋で識字教育を1年間受け、読み書きができるようになる	1人分

寄付方法のご案内

日本ユネスコ協会連盟へのご寄付は、税制優遇措置の対象です。
当連盟への寄付金は、所得税・法人税・相続税の税制上の優遇措置があります。
なお、一部の自治体（東京都）では、個人住民税の寄付金税額控除の対象となります。

月１いいことプログラム（毎月寄付）

口座振替またはクレジットカードにより、毎月決まった金額を寄付いただくプログラムです。金額は1000円からご自身で設定いただけます。

都度のご寄付

郵便振替・銀行振込・クレジットカードにより、ご自身のタイミングで寄付いただく方法です。巻末の振込用紙もご活用ください。

遺贈

遺言によりご自身の財産を贈与（寄付）いただく方法です。不動産の遺贈や相続財産の寄付などのご相談もお受けしています。ご希望の方には、手続き方法などを掲載したパンフレットをお送りします。

寄付方法について詳しくは、ホームページをご覧ください▶
https://www.unesco.or.jp/join/support/

書きそんじハガキなどのタンス遺産

書きそんじたハガキ、未使用の切手、プリペイドカードなどの「タンス遺産」をお送りください。途上国の教育支援「世界寺子屋運動」の活動資金として活用させていただきます。

送付先
〒150-0013
東京都渋谷区恵比寿 1-3-1-12F
日本ユネスコ協会連盟　書きそんじ係



タンス遺産3兄弟キャラクター©DENTSU INC.

古本寄付（チャリボン）

読まなくなった中古本をチャリボンにお送りください（寄付先に日本ユネスコ協会連盟をご指定ください。）。買取相当額をユネスコ活動全般への活動資金として活用させていただきます。ネットで申込いただくと、ご自宅・職場まで引き取りにきてくれます。
https://www.charibon.jp/partner/unesco/
charibon by VALUE BOOKS

ポイント寄付

クレジットカードや各種ポイントサービスのポイントを寄付いただく方法です。
15社以上のポイントサービスと提携しています。

その他

Yahoo!ネット募金
クレジットカードでの寄付や、Tポイントを使って寄付いただけます。

メルカリ寄付
メルペイ残高で寄付が可能です。寄付先に日本ユネスコ協会連盟をご指定ください。

つながる募金
ソフトバンクポイント寄付やソフトバンクの携帯料金とまとめての寄付、クレジットカードで寄付が可能です。

企業・団体による寄付のご相談は右記までご連絡ください▶　企業寄付係：kikaku@unesco.or.jp

会計報告

2022年度 正味財産増減計算書（要約版）

2022年4月1日から2023年3月31日まで

（単位：千円）

科　　目	金　額
Ⅰ 一般正味財産増減の部	
1．経常増減の部	
(1) 経常収益	
基本財産運用益	1,470
特定資産運用益	5,946
受取会費	45,435
事業収益	9,992
受取補助金等	1,457
受取寄付金	515,385
雑収益	4,176
経常収益計	583,862
(2) 経常費用	
事業費	563,607
管理費	41,347
経常費用計	604,955
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 21,093
評価損益等計	14,885
当期経常増減額	△ 6,208
2．経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
経常外収益計	0
(2) 経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	△ 6,208
一般正味財産期首残高	834,635
一般正味財産期末残高	828,427
Ⅱ 指定正味財産増減の部	
受取寄付金	375,606
特定資産評価益	0
特定資産評価損	224
一般正味財産への振替額	△ 457,593
当期指定正味財産増減額	△ 82,211
指定正味財産期首残高	1,468,525
指定正味財産期末残高	1,386,314
Ⅲ 正味財産期末残高	2,214,741

注：記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

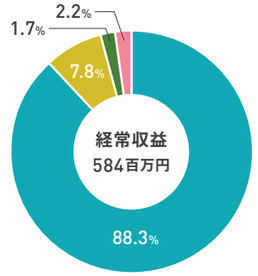
監事による監査に加え、監査法人エムエムピージー・エーマック並びに要石公認会計士事務所より監査を受けております。

計算書類等、詳しくは当協会連盟のホームページに掲載されていますので、そちらをご覧ください。

https://www.unesco.or.jp/document/

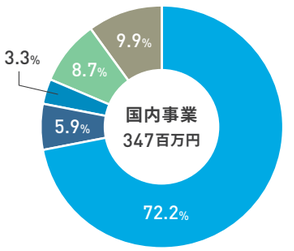
◀詳しくはこちら

2022年度 経常収益の内訳

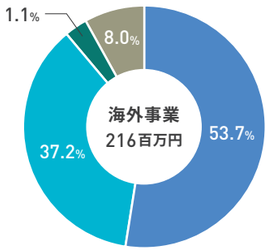


- 受取寄付金
- 受取会費
- 事業収益
- その他：特定資産運用益（1.0%）受取補助金等（0.2%）基本財産運用益（0.3%）雑収益（0.7%）

2022年度 経常費用のうち事業費の内訳



- 子ども教育支援
- 地域遺産・世界遺産の保護保全・啓発
- 多文化共生促進
- 地域草の根推進
- 普及広報・財務基盤強化



- 途上国への教育支援（世界寺子屋運動）
- 途上国への医療・食糧支援（一杯のスプーン）
※ウクライナ緊急募金、トルコ・シリア大地震への緊急支援を含む
- 世界遺産保護・保全支援
- 普及広報・財務基盤強化

公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿 1-3-1 朝日生命恵比寿ビル 12 階
TEL：03-5424-1121　Email：nfuaj_web@unesco.or.jp　https://www.unesco.or.jp